

令和8年度
愛媛県立東予総合高等学校
総 合 学 科
シラバス

| | | | | | | | |
|---|---|---|-------|---|---------------------------------------|-----|---|
| 教 科 | 国語 | 科 目 | 現代の国語 | | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教 科 書 副教材等 | 高等学校改訂版標準現代の国語（第一学習社） 現代新国語辞典（三省堂） | | |
| 学習目標 | | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１） 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 （２） 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３） 言語が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 視野を広げるー自己 枠を壊して自由に生きる 書き方の基礎レッスン なぜ本を読むのか 自分の立場を明確にする一言語 言葉遣いとアイデンティティ | | | ○筆者の経験から導かれたメッセージを読み取り、自由に生きるとはどういうことか考える。 ○表記・表現の基本ルールを理解する。 ○筆者の考える読書の効用について積極的に考え、学習課題に従ってまとめようとしている。 ○言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 | | | |
| 2 | 根拠を示すー文化 「間」の感覚 論理的に考えるー情報・コミュニケーション 私たちはなぜ承認を求めるのか 伝えたいことを明確にするー相互理解 ステレオタイプの落とし穴 | | | ○論理の型として「対比」の関係を学ぶ。 ○文章の効果的な接続の仕方を理解する。 ○承認欲求を説明するための論展開を理解し、SNSでのコミュニケーションのあり方について考えを深める。 ○本文を読んで考えを深め、「ステレオタイプの落とし穴」に陥らないために必要なことについて発表しようとしている。 | | | |
| 3 | 考えを深めるー仕事 人はなぜ仕事をするのか 社会に目を向けるー共に生きるということ 黄色い花束 社会に対する意見文を書く | | | ○内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ○話し合いの目的に応じて議論や討論を行う。 ○文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈し、筆者の思いについて考えを深める。 ○説明や表現の仕方を工夫して、積極的に意見文を書こうとしている。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 ・情報を収集し、活用する力が身に付いている。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもって言葉の効果的に使おうとしている。 | | | | | |
| 評価方法 | 授業中に提示された課題、定期考査だけでなく、漢字テスト、ファイルや学習プリントなどの提出物、出席状況、授業態度などから総合的に評価します。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○教科書をよく読み、わからない漢字の読みや語句の意味は自主的に辞書で調べましょう。 ○受け身の態度ではなく、自分なりの感想や疑問を持ち、積極的に授業に臨みましょう。 ○プリントはきちんと書き込み、後で見てよくわかるように整理の仕方を工夫しましょう。 ○提出物は機嫌を守って必ず提出しましょう。○教科書と関連する本や新聞を読むなど、図書館を利用して読書に親しみましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|------|-------------|--------------------------------------|-----|---|
| 教 科 | 国語 | 科 目 | 言語文化 | | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教科書 副教材等 | 高等学校改訂版標準言語文化（第一学習社） 現代新国語辞典（三省堂） | | |
| 学習目標 | | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 現代文編 随想 私の好きな季語 小説 とんかつ 古文編 古文入門 古文を読むために 児のそら寝 漢文編 漢文入門 訓読に親しむ 故事成語 | ○季語や体験談から日本独特の感性について理解を深める。 ○会話や行動の描写から登場人物の心情とその変化を読み取る。 ○古文と現代文の違いについて確認し、説話のおもしろさを味わう。 ○訓読の決まりを理解し、格言に親しむ。 ○故事成語のもとになった話を読み、漢文の読解に慣れ親しむ。 | | | | | |
| 2 | 現代文編 小説 羅生門 短歌と俳句 古文編 枕草子 うつくしきもの 伊勢物語 東下り 漢文編 論語 | ○登場人物の心情の変化を場面 に即して読み取り、主題を考える。 ○短歌や俳句の表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。 ○作品の内容と自分を関連付けながらものの見方、感じ方、考え方をまとめる。 ○歌物語の内容を叙述をもとに的確に捉える。 ○思想に興味を持つとともにものの見方や考え方を豊かにする。 | | | | | |
| 3 | 現代文編 夢十夜 古文編 平家物語 宇治川の先陣 漢文編 漢詩の鑑賞 | ○表現に即して小説を丁寧に読み、独自の世界を味わう。 ○軍記物語特有の表現に注意しながら、登場人物の言動や心情を読み取る。 ○漢詩の決まりを理解し、作品の世界を味わう。 | | | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。 | | | | | |
| 評価方法 | 定期考査、漢字テスト、ファイルや学習プリントなどの提出物、出席状況、授業態度などから総合的に評価します。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○ 教科書をよく読み、わからない漢字の読みや語句の意味は自主的に辞書で調べましょう。 ○ 受身の態度ではなく、自分なりの感想や疑問を持ち、積極的に授業に臨みましょう。 ○ プリントはきちんと書き込み、後で見てよくわかるように整理の仕方を工夫しましょう。 ○ 提出物は期限を守って必ず提出しましょう。 ○ 教科書と関連する本や新聞を読むなど、図書館を利用して読書に親しみましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|---|------|---|----------------------------------|-----|---|
| 教 科 | 地理歴史 | 科 目 | 地理総合 | | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教 科 書 副教材等 | 高等学校 新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） | | |
| 学習目標 | | 現代世界の世界的知識を深め、系統地理的、地誌的な探究の方法を学ぶ学習を通して、地理的な見方や考え方、地理的技能を身に付ける。また、地図帳の利用の仕方を身に付け、地球的視野から現代世界の諸課題について主体的に考え、行動する自覚と態度を養う。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 第1部 地図でとらえる現代世界 1 地図と地理情報システム 2 結び付きを深める現代世界 | | | ○日常生活の中でみられる地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ○地図や地理情報システムについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 | | | |
| 2 | 第2部 国際理解と国際協力 1 生活文化の多様性と国際理解 2 地球的課題と国際協力 | | | ○現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ○地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の関連性などについて大観し理解する。 | | | |
| 3 | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 1 自然環境と防災 2 生活圏の調査と地域の展望 | | | ○世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備え自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ○自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。地図や統計・画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択・活用することを通して現代世界の地理的事象を追究、探究しながら課題を主体的に解決しようとしている。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的にまた、日本人として考察するとともに世界の変化を踏まえながら、自らの意見、考えを表現しようとしている。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての姿勢を打ち出そうとしている。 | | | | | |
| 評価方法 | 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」「提出物（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト等」、「定期考査」、「長期休業中の課題の内容」により評価します。また、学年の成績は各学期の成績を相加平均し、5段階法でも評価をします。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○まずは地理や地図を好きになることから始めてもらいたい。例えば、オリンピックやワールドカップなどの大きなスポーツ大会が開かれる際に、その都市や周辺地域について地図帳やインターネット等を利用して調べてみるなど、身近に興味を持ったところから関心の幅を広げていこう。テレビのニュースや情報番組、新聞記事、インターネット上の配信記事などに触れる機会を増やし、最新の国際情勢を入手することにも努めてもらいたい。 ○国内外を問わず、気象や災害に関するニュースについて、地図帳等を利用して地理的要因や背景を調べてみよう。また、授業で学習した世界の諸地域については、インターネットで関連情報を検索してみるとよい。授業で学んだことと実際の世の中の動きを重ね合わせることで、学習の理解を深めることができる。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|---|------|---|---------------|-----|---|
| 教 科 | 地理歴史 | 科 目 | 歴史総合 | | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教科書 副教材等 | 明解 歴史総合（帝国書院） | | |
| 学習目標 | | 近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 第2部 近代化と私たち 1 江戸時代の日本と結び付く世界 2 欧米諸国における近代化 3 近代化の進展と国民国家形成 4 アジア諸国の動揺と日本の開国 5 近代化が進む日本と東アジア | | | ○18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、理解する。 ○18世紀以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ○列強の帝国主義的政策とアジア諸国の変容を理解し、現代社会に与えた影響と課題について考察する。 | | | |
| 2 | 第3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 第一次世界大戦と日本の対応 2 国際協調と大衆社会の広がり 3 日本の行方と第二次世界大戦 4 再出発する世界と日本 | | | ○第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカの台頭、国際連盟の成立などを基に、第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。 ○第二次世界大戦の推移と戦後の世界に与えた影響、戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向や冷戦下での国際情勢について考察する。 | | | |
| 3 | 第4部 グローバル化と私たち 1 冷戦で揺れる世界と日本 2 多極化する世界 3 グローバル化の中の世界と日本 | | | ○石油危機、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に市場経済の変容と課題を理解する。 ○冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を考察する。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・歴史的・地理的事象に対する関心と問題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会を主体的に生き、国家社会を形成する日本国民としての自覚を持つことができる。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・歴史的・地理的事象から課題を見出し、日本及び世界の歴史が形成される過程と生活文化の地域的特色を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その変化の過程を適切に表現することができる。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用することができる。 | | | | | |
| 評価方法 | 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」「提出物（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト等」、「定期考査」、「長期休業中の課題の内容」により評価します。また、学年の成績は各学期の成績を相加平均し、5段階法でも評価をします。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○ 授業では、白板に書かれていることをノートに書き写すことはもちろんのこと、話をよく聞いて大事だと思ったことは、ノートに自主的に書き留めよう。 | | | | | | | |
| ○ 現代世界の人々の生活がわかるテレビ番組や動画を積極的に見てみよう。 | | | | | | | |
| ○ 新聞やインターネットから情報を得て、世界で起きていることに関心を持とう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|---|------|--|-------------------|-----|---|
| 教 科 | 数学 | 科 目 | 数学 I | | | 単位数 | 3 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教科書 副教材等 | 改訂版 新編数学 I (数研出版) | | |
| 学習目標 | | 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力や、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばす。また、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 | | | ○式の展開と因数分解について、目的に応じて式を変形し、見通しをもって式を扱うことができるようにする。数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式や絶対値、根号を含む式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。 ○ベン図を用いて、集合を視覚的に表現することで理解を深める。集合の基本的な事項を学ぶ。必要条件、十分条件および逆・裏・対偶などの定義を理解し、論理的な思考力を伸ばす。 | | | |
| 2 | 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 | | | ○2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や2次方程式および2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。 ○鋭角の三角比の意味や相互関係、それらを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。 | | | |
| 3 | 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 第5章 データの分析 | | | ○角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようになる。 ○中学校での学習をさらに発展させて、分散及び標準偏差などの用語を知り、意味を理解するとともに、それらを利用してデータの傾向を的確にとらえて、説明できるようになる。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・数学 I における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりできる。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・数や式を適切に変形する力や図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、表や式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象から設定した問題について、適切な手法で分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けることができる。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりすることができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。 | | | | | |
| 評価方法 | 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト等」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○ 定期考査は授業の内容から出題します。また、対策プリントが配布された場合は各自でしっかり復習してください。 ○ 宿題や課題は必ずやり遂げましょう。また、提出物は丁寧に書き、必ず提出期限を守り提出しましょう。 ○ 授業中は先生の指示（「聞きましょう」「書きましょう」「話し合いましょう」など）をしっかり聞き、指示された通りの活動を行い、授業に積極的に参加してください。 ○ わからない内容がある場合は、遠慮しないで積極的に質問してください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|--|-----|---|-----------------|-----|---|
| 教 科 | 数 学 | 科 目 | 数学A | | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教 科 書 副教材等 | 改訂版 新編数学A（数研出版） | | |
| 学習目標 | | 場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質について概念を理解させ、基礎的な知識の習得と処理技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力や、習得した知識や技能を的確に活用する能力を伸ばす。また、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率 | | | ○集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解する。具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解する。また、確率の意味や、排反や独立などの基本的な事象の意味や活用法についての理解を深め、様々な事象の確率を求める。また、条件付き確率や期待値について具体例を通し、その意味を理解して活用する。 | | | |
| 2 | 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形 | | | ○三角形の五心やチェバの定理やメネラウスの定理など、様々な定理を学び、基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。また、空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。 | | | |
| 3 | 第3章 数学と人間の活動 | | | ○素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方、整数の除法の性質やユークリッドの互除法の仕組み、二元一次不定方程式の解について理解し、整数の性質を事象の考察に活用する。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・数学Aにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりできる。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・事象の構造、確率の性質や法則に着目し、場合の数や確率を求める方法を多面的に考察して事象の起こりやすさを判断し、期待値を意思決定に活用できる。 ・図形の構成要素の関係などに着目し、論理的に考察したり説明したりできるとともに、図形の性質について統合的・発展的に考察できる。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりすることができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。 | | | | | |
| 評価方法 | 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト等」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○ 定期考査は授業の内容から出題します。また、対策プリントが配布された場合は各自でしっかり復習してください。 ○ 宿題や課題は必ずやり遂げましょう。また、提出物は丁寧に書き、必ず提出期限を守り提出しましょう。 ○ 授業中は先生の指示（「聞きましょう」「書きましょう」「話し合いましょう」など）をしっかりと聞き、指示された通りの活動を行い、授業に積極的に参加してください。 ○ わからない内容がある場合は、遠慮しないで積極的に質問してください。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|--|------|---|---|-----|---|
| 教 科 | 理科 | 科 目 | 化学基礎 | | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教 科 書 副教材等 | 高等学校 改訂 新化学基礎（第一学習社） 新課程版ネオパルノート 化学基礎（第一学習社） | | |
| 学習目標 | | 物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 序章 化学と人間生活 第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 第2節 化学結合 | | | ○日常生活の一コマから化学に触れる視点を持つ。 ○混合物と純物質を分離する方法を理解する。元素の概念と元素の確認方法を理解する。 ○原子の構造を理解し、原子の電子配置と原子どうしの結合、周期表の関係を理解する。物質を構成する粒子と、その粒子から構成される物質の性質を理解する。 | | | |
| 2 | 第2章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 第2節 酸・塩基とその反応 | | | ○粒子の数にもとづく量の表し方である物質量の概念を導入し、物質量と質量、物質量と気体の体積との関係について理解する。 ○化学反応に関する実験などを行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解する。 ○酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質および中和反応に関与する物質の量的関係について理解する。 | | | |
| 3 | 第3節 酸化還元反応 | | | ○酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 ○金属のイオン化傾向について理解する。また、電池の仕組みと電気分解を理解する。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究できている。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | | | | | |
| 評価方法 | 下記の1、2に示す『知識・技能』、『思考・判断・表現』及び『主体的に学習に取り組む態度』の3観点から総合的に評価する。また、学年の成績は各学期の相加平均とし、5段階法でも評価します。 1 各学期の中間と期末の定期考査及び小テスト、基礎的内容の定着度、平素の学習状況、努力度、実験レポート、課題レポート、授業ノート等の提出状況とその内容等で評価する。 2 学期全体の評価は、定期考査成績だけではなく、課題、実験レポート、授業ノート等の他、主体性を持った授業への参加、発表の仕方等も加味して総合的な判断で行う。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○ 平素より身の回りの天然の物質や工業製品を手にとって、その物質の特徴を知ろう。 ○ ノート、課題などの提出物は、きちんと仕上げ、確実に提出しましょう。 ○ 教科書をよく読んで、準拠問題集に取り組もう。 ○ 実験を行う前には、実験プリントをよく読み、実験の目的・実験の方法などを把握しましょう。 ○ 復習し、基本事項をしっかりと定着させましょう。また、問題練習をしっかりと行いましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|--|--|-----|--|-------------|-------------------|---|
| 教 科 | | 保健体育 | | 科 目 | 体育 | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | | 農業・工業・家庭・総合 | | 学 年 | 1 | 教科書 副教材等 | 新高等保健体育改訂版（大修館書店） | |
| 学習目標 | | 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 1 オリエンテーション 2 体づくり運動 3 選択制授業 1 ・ソフトボール（ベースボール型） ・バレーボール（ネット型） ・ダンス 4 体育理論 1 | | | | ○「体育」の学習についての意義や内容、評価の方法を理解する。 ○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解する。 ○自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ○ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができるようにする。 ○ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 ○ダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。 ○作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。 | | | |
| 2 | 1 体づくり運動 2 選択制授業 2（ゴール型） ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール 3 陸上競技（長距離走） 4 体育理論 2 | | | | ○自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 ○ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 ○フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとする。 ○長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 ○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 | | | |
| 3 | 1 体づくり運動 2 選択制授業 3（ネット型） ・テニス ・バドミントン ・卓球 3 体育理論 3 | | | | ○手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、実生活に役立てることができるようにする。 ○ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 ○攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 ○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について自主的に取り組むことができるようにする。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | | |
| 知識・技能 | | ・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするために、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 | | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 | | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。 | | | | | | |
| 評価方法 | 学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「スキルテスト」、「単元テスト」、「課題・レポート」、「観察（授業への取組）」等により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。 | | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | | |
| ○ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解しよう。 ○ 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにしよう。 ○ 各運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにしよう。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|---|----|---|--------------------------------------|-----|---|
| 教 科 | 保健体育 | 科 目 | 保健 | | | 単位数 | 1 |
| 学 科 | 農業・工業・家庭・総合 | 学 年 | 1 | 教 科 書 副教材等 | 新高等保健体育改訂版（大修館書店） 新高等保健ノート（大修館書店） | | |
| 学習目標 | | 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身に付ける。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 第1単元 現代社会と健康 | | | | | | |
| | 1 日本における健康課題の変遷 | | | ○健康指標や疾病構造の変化から、日本の健康課題を理解し、健康水準や疾病傾向と社会との関わりを理解する。 | | | |
| | 2 健康の考え方と成り立ち | | | ○健康の構成要素や健康にかかわる要因を理解する。 | | | |
| | 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり | | | ○ヘルスプロモーションの考え方や健康を保持増進する方法を理解する。 | | | |
| | 4 健康に関する意思決定・行動選択 | | | ○健康を保持増進するための適切な意思決定・行動選択とは何かを考える。 | | | |
| | 5 現代における感染症の問題 | | | ○感染症の種類や発生要因、感染症に関わる現状を理解する。 | | | |
| | 6 感染症の予防 | | | ○感染症予防の三原則と予防のための個人や社会の取組を理解する。 | | | |
| 2 | 7 性感染症・エイズとその予防 | | | ○性感染症、エイズの現状と課題、予防に必要な個人と社会の取組を理解する。 | | | |
| | 8 生活習慣病の予防と回復 | | | ○生活習慣病のリスク因子と予防や回復のために必要な取組を理解する。 | | | |
| | 9 身体活動・運動と健康 | | | ○身体活動、運動と健康の関係や継続的に必要な個人や社会の取組を理解する。 | | | |
| | 10 食事と健康 | | | ○食事と健康の関係を理解し、食生活指針を実践できる力を養う。 | | | |
| | 11 休養・睡眠と健康 | | | ○休養、睡眠と健康の関係を確保に必要な個人と社会の取組について理解する。 | | | |
| | 12 がんの予防と回復 | | | ○がんの種類を理解し、予防や回復のための取組について理解する。 | | | |
| | 13 喫煙と健康 | | | ○喫煙による健康への影響と健康被害の防止に必要な対策について理解する。 | | | |
| | 14 飲酒と健康 | | | ○飲酒による健康への影響と健康被害の防止に必要な対策について理解する。 | | | |
| | 15 薬物乱用と健康 | | | ○薬物乱用による健康および社会への影響について理解する。 | | | |
| | 16 精神疾患の特徴 | | | ○代表的な精神疾患の特徴や症状と発症、回復のポイントを理解する。 | | | |
| | 17 精神疾患への対応 | | | ○精神疾患の予防や発見、セルフケアについて考え、取組の重要性を理解する。 | | | |
| 3 | 第2単元 安全な社会生活 | | | | | | |
| | 18 事故の現状と発生要因 | | | ○事故が起こる要因を理解し、現状について考える。 | | | |
| | 19 交通事故防止の取組 | | | ○交通事故防止には個人だけでなく社会的な取組も重要であると理解する。 | | | |
| | 20 安全な社会の形成 | | | ○安全な社会を作るために必要な個人的取組や環境整備について考える。 | | | |
| | 21 応急手当の意義と救急医療体制 | | | ○応急手当の意義と救急医療体制の現状を理解し、適切な利用法を身に付ける。 | | | |
| | 22 日常的な応急手当 | | | ○けがの基本的な応急手当の方法と熱中症の予防、適切な対応を身に付ける。 | | | |
| | 23 心肺蘇生法実習 | | | ○心肺蘇生法やAEDを用いて実習を行い、知識と実践力を身に付ける。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれぞれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む学習に主体的に取り組もうとしている。 | | | | | |
| 評価方法 | 学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。主に「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物・課題（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト」、「定期考査」等により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○ 健康・安全に関する話題を身近なものとして捉え、学習した内容を自分自身の生活とを結び付け生かせるようにしましょう。 | | | | | | | |
| ○ 授業の50分間を大切に、積極的に取り組みましょう。 | | | | | | | |
| ○ 課題は必ずやりましょう。ていねいに取り組み、提出期限は守りましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|---|-----|---|-------------|---------------|---|
| 教 科 | 芸術 | | 科 目 | 音楽Ⅰ | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 農業・工業・家庭・総合 | | 学 年 | 1 | 教科書 副教材等 | MOUSA1（教育芸術社） | |
| 学習目標 | | 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指す。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | ・歌唱 校歌、日本歌曲、外国語の曲など ・器楽（ドラム） ・鑑賞 カンツォーネについて | | | ○歌唱活動に関心を持ち、音楽表現を工夫する。 ○歌詞の内容と曲想を感受しながら歌唱する。 ○基本的な奏法を身に付け、リズムパターンを正確に演奏する。 ○即興的な奏法を身に付ける。 ○音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。 ○各曲の音楽の特徴を理解し、関心を持って鑑賞する。 | | | |
| 2 | ・合唱 講座内及び校内文化祭で発表 ・器楽（ギター） ・鑑賞 西洋音楽史（中世、バロック、古典派） 舞台芸術（歌劇「カルメン」） | | | ○合唱活動に関心を持ち、歌詞の内容や曲想を生かして、声部の役割を理解し、全体の響きに調和させて、表現を工夫して合唱する。 ○ギターの音色や奏法を身に付け、曲想に合った音楽表現をする。 ○音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。 ○オペラの特徴を理解し、関心を持って鑑賞する。 | | | |
| 3 | ・創作 音階、音楽を形づくっている要素の働きや構成 ・器楽（三線） ・鑑賞 西洋音楽史（ロマン派、近・現代） | | | ○音階の特徴を生かして、イメージを持って音楽を作る。 ○三線の基本的な奏法を身に付け、曲想にあった音楽表現を工夫する。 ○音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | | | | | |
| 評価方法 | 3観点の達成度を、「実技テスト」「授業への取組」「確認小テスト」「提出物」等を基に総合的に評価します。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○音楽と生活との関わりに関心を持つとともに、思いや意図を持って表現活動や鑑賞活動を行いましょう。 ○様々な活動を通して、自己表現する喜びや楽しさ、仲間とともに活動する喜びを味わい、音や音楽に興味・関心を持ちましょう。 ○鑑賞では、楽曲の特徴や演奏の良さや美しさを味わって聴きましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|---|-----|---|-------------|-----|---|
| 教 科 | 芸術 | 科 目 | 美術Ⅰ | | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 農業・工業・家庭・総合 | 学 年 | 1 | 教科書 副教材等 | 美術Ⅰ（光村図書出版） | | |
| 学習目標 | | 1 美術との日常的なかかわりを学習し、身近な生活や自然に普遍的な美を楽しもうとする感性を める。 2 集中して授業に挑み、創造活動を主体的に展開する。 3 創造的活動を通して対象を見つめる美的体験を豊かにし、表現力と結び付ける。 4 鑑賞の能力を伸ばす。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 【オリエンテーション】 【絵画】身近なものを描く 植物を描く 【デザイン】アクリル絵の具の使い方 トーンセパレーション ポスター制作 | | | ○授業の進め方、美術Ⅰ学習の意義を知る。 ○鉛筆、絵具の基礎を身に付ける。 ○鉛筆デッサンによる表現力を高める。 ○色彩の基本を学習する。 ○トーンの塗り分けを勉強し、デザイン基礎を学ぶ。 ○ポスター制作を通してメッセージの伝え方を知る。 | | | |
| 2 | 【映像メディア表現】 日常をとらえる アニメーションをつくる。 【鑑賞】彫刻作品の鑑賞 【彫刻】粘土塑像 | | | ○美しさを追及し、作品を仕上げる技能を身に付ける。 ○物体の形態を正しくとらえ、空間を演出する技能を身に付ける。 ○連続する動的な表現ができるようにする。 ○彫刻作品における立体感や量感の表現を知る。 ○粘土を使った立体表現を身に付ける。 ○多角的な物体の理解力を高める。 | | | |
| 3 | 【絵画】ドローイング プレゼンテーション 【鑑賞】日本美術と西洋美術 【まとめ】これからの生活と美術 | | | ○それぞれの想像の世界を表現する。 ○自分の作った作品の発表、プレゼンテーションを行う。 ○西洋との比較を通し、日本文化の魅力を再認識する。 ○これまでの美的体験を生活に生かせるようにする。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・作品の出来映え ・必要な知識や技能を身に付けているか。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・制作時の創意工夫 ・発想したことをアイデアスケッチにまとめているか。 | | | | | |
| 主体的に学習に 取り組む態度 | | ・出席状況 ・授業の受け方 ・ノートのとり方 ・準備物 ・制作に取り組む姿勢 | | | | | |
| 評価 方法 | 1 指定した提出日に間に合わない、完成した状態で提出されていない作品は、評価の対象としない。 2 美術の評価は、関心・意欲・態度（出席状況・授業の受け方・ノートのとり方など）発想や構想の能力（作品制作時の創意工夫・アイデアスケッチなど）創造的な技能（作品の出来映え・知識や技能の習得など）鑑賞の能力（自己評価表への記入・鑑賞時の発表など）の4つの分野で評価する。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○ 忘れ物をしない。準備や片付けを丁寧に行う。 ○ 提出物は必ず期限を守って提出すること。 ○ 「出来た」と思ってからが大切。先生や友達のアドバイスを聞いて、もう一手間加えてみよう。 ○ 丁寧に、こつこつと手を動かし続ければ、必ず作品は良くなります。 ○ 作品制作と鑑賞を通して感覚を磨くことで、感じ取る力、表現する力が身に付きます。美術の授業を楽しみ、生活を豊かにしましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|--------------|--|---|-----|---|
| 教 科 | 外国語 | 科 目 | 英語コミュニケーションⅠ | | | 単位数 | 3 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教 科 書 副教材等 | Power On English Communication I Revised (東京書籍) 単語集 プリント等 | | |
| 学習目標 | | 日常的・社会的な話題について、様々な知識と技能を身に付け、必要な情報をもとに、話し手、書き手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉え、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続け、論理性に注意して積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ることができる。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | Lesson 1 Japan's New Tourism Lesson 2 Light from Creatures Lesson 3 One Small Goal at a time | | | ○外国からの観光客に人気の体験型ツーリズムという旅行形態を知らせるとともに、地域の環境や文化を外国人に紹介するという観点から地域の魅力を考え、その魅力を発信できるようになる。 ○生き物が光る理由や、その光が医療研究に利用されている現状を知り、自分の考えなどを論理的に話したり、書いたりして伝えることができる。 ○野球選手である吉田正尚選手についてのインタビュー内容をもとに、自分の考えなどを論理的に話したり、書いたりして伝えることができる。また、自分の将来の夢について発表できる。 | | | |
| 2 | Lesson 4 Miniature Life Lesson 5 Banana Paper Lesson 6 Patterns in Human Behavior Lesson 7 No Plastic or No Future | | | ○ミニチュア写真家、見立て作家である田中達也さんの紹介やインタビューをもとに、日本の伝統文化について話し合うことができる。 ○バナナペーパーの取り組みからSDGsについて考え、自らができることを英語で表現できる。 ○人間の興味深い行動パターンに関する実験の手順や結果を解説する雑誌記事をもとに、人間の行動をコントロールする方法について発表することができる。 ○プラスチックごみがもたらす環境問題について関心をもち、自分の考えを英語で表現できる。 | | | |
| 3 | Lesson 8 Oh, My Cod! Lesson 9 Is Esports a Real Sport? Lesson 10 Never Too Late to Learn and Relearn | | | ○イギリスのフィッシュ・アンド・チップスの歴史と食料資源に関する課題について関心をもち、今後どう対処すべきかを英語で表現できる。 ○eスポーツについての利点や欠点を読み取り、自らの意見を英語で述べることができる。 ○篠原ともえさんの作品や彼女の思いについて考え、紹介文を発表できる。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・言語の働きや役割を理解し、コミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・日常的な話題や社会問題について情報や考えなどをもとに、自分の意見や考えを表現することができる。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | | | |
| 評価方法 | 観点別学習状況の評価の達成度を「定期考査・小テスト」「課題 やノート提出状況」「授業への取組」「プレゼンテーション」等を基にして、総合的に評価します。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○英語の基本である単語力を高め、英語の特徴を理解し、音読を繰り返していきましょう。また学習した表現を使って自らの考えを発信することにチャレンジしましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|---|---------|---|--|-----|---|
| 教 科 | 外国語 | 科 目 | 論理・表現 I | | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教科書 副教材等 | NEW FAVORITE English Logic and Expression Revised (東京書籍) 単語集 プリント等 | | |
| 学習目標 | | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを英語で的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | Unit 1 Lesson 1 初めての食事 Lesson 2 道に迷う Lesson 3 人物紹介 Lesson 4 体調が悪い Lesson 5 買い物 Lesson 6 行ってみたい場所 Lesson 7 イベントに誘われる Lesson 8 スクールカウンセラーに相談 | | | ○食事の際に褒めたり、勧めたり、断ったりする。 ○相手に道を尋ねたり、道案内したりする。 ○身近な人を紹介し、好きなことやものについて発表する。 ○自分の体調を伝えたり、相手の体調を尋ねたりする。 ○買い物で使う表現を習得し、適切に使用する。 ○希望を述べ、その理由を表現する。 ○誘いを受ける時の表現を用いて会話をする。 ○手助けを申し出たり、助言や提案をしたりする。 | | | |
| 2 | Unit 1 Lesson 9 お気に入りを紹介 Lesson 10 待ち合わせに遅刻 Lesson 11 家庭でのディスカッション Lesson 12 英字新聞に投稿 Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート① Lesson 2 クラスでディベート② Lesson 3 経験談のスピーチ Lesson 4 遊びやスポーツを紹介 | | | ○映画や本のあらすじを紹介し、自分の好みを発表する。 ○謝ったり、許したり、励ましたりして、自分の考えを表す。 ○共感を述べ、残念な気持ちを表現する。 ○残念な気持ちを表現し、解決策を提案して発表する。 ○ディベートのやり方を学び、理由を述べ、例を挙げる。 ○相手の意見を反駁したり、引用したりする。 ○自分の経験を発表したり、アドバイスしたりする。 ○遊びやスポーツのルールや手順を順序だてて説明する。 | | | |
| 3 | Unit 2 Lesson 5 日本をPR Lesson 6 物語の両面を伝える Lesson 7 読み手を納得させる Lesson 8 読み手を説得する | | | ○日本の文化や風習を説明する。 ○物事の利点と欠点を発表する。 ○自分の主張を発表し、理由や根拠を説明する。 ○条件を出して意見を述べ、自分の考えや気持ちを表現する。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・ 基本的な文法や語彙を理解し、基礎的な知識を身に付けることができる。 ・ 教科書で扱われている題材の主題や異文化の背景を理解できる。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・ 教科書の内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・ 教科書の内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・ 授業を通してコミュニケーションへの関心を持ち、積極的にまじめな態度で授業に参加することができる。 | | | | | |
| 評価方法 | 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物（ノート・プリント）」、「小テスト」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階でも評価します。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○ 授業の50分間を大切に、真剣かつ能動的に取り組むことが大切です。 ○ 授業をより効果的に受けることができるように、家庭での学習(宿題・予習)をしましょう。 ○ 英語を話せるようになるためには、声に出して読みましょう。授業中の音読練習にも意欲的に取り組んでください。 ○ 定期考査は授業の内容から出題します。また、対策プリントが配布された場合は各自でしっかり復習してください。 ○ 宿題や課題は必ずやり遂げましょう。また、提出物は丁寧に書き、必ず提出期限を守り提出しましょう。 ○ 英単語・熟語を覚えることが何よりも大切です。小テストが実施される場合はしっかり準備をして臨みましょう。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|---|-----|---|------------------------------|-----|---|
| 教 科 | 情 報 | 科 目 | 情報Ⅰ | | | 単位数 | 2 |
| 学 科 | 総合 | 学 年 | 1 | 教科書 副教材等 | 新編 情報Ⅰ（東京書籍） 新編 情報Ⅰ 資料ノート | | |
| 学習目標 | | 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | オリエンテーション 1章 情報で問題を解決する 1 情報とメディアの特性 2 問題解決の流れ 3 発想法 4 情報モラル 5 個人情報の流出 6 傷つかない傷つけないために 7 著作権 8 情報技術の発展 9 情報化と私たちの生活の変化 10 よりよい情報社会へ 2章 情報を伝える 1 コミュニケーション手段の変化 2 ネットコミュニケーションの特徴 3 デジタルの世界へ 4 数値と文字のデジタル表現 | | | ○「情報Ⅰ」の学習目標や内容、コンピュータ教室の使用ルールについて知る。 ○情報の特性から、情報とは何か理解する。 ○様々なメディアの特性を理解する。 ○問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。また、情報技術が活用できることや発想法を学習する。 ○情報社会で生活していくための情報モラルを理解する。 ○著作権について理解する。 ○人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ○メディアとコミュニケーションの変遷について学習する。 ○ネットコミュニケーションの特性について学習する。 ○デジタルデータとは何かを学習する。 | | | |
| 2 | 5 音と画像のデジタル表現 6 色と動画のデジタル表現 7 目的に応じたデジタル化 8 情報デザイン 9 ユニバーサルデザイン 10 情報デザインの流れ 3章 コンピュータを活用する 1 コンピュータとは何か 2 ソフトウェアの仕組み 3 演算の仕組みとコンピュータの限界 4 アルゴリズムの表現 5 プログラムの基本構造 6 発展的なプログラム 7 モデル化とシミュレーション 8 シミュレーションの活用 | | | ○音、画像、動画のデジタル化について学習する。 ○デジタルでの色の原理を理解する。 ○ユニバーサルデザイン、ユーザインターフェースについて学習する。 ○情報デザインのプロセスを理解し、プロセスを活用する方法を身に付ける。 ○デザイン思考に基づいた分析を理解する。 ○コンピュータの基本構成、ハードウェア、ソフトウェアについて理解する。 ○プログラム動作の仕組みについて学習する。 ○アルゴリズムの必要性や表現方法について学習する。 ○プログラムの作り方について学習する。 ○モデル化の考え方と、モデルの分類について学習する。 ○テーマを決め、表計算ソフトウェアでシミュレーションを行う。 | | | |
| 3 | 4章 データを活用する 1 ネットワークとインターネット 2 インターネットの仕組み 3 サーバとクライアント 4 インターネット上のサービス 5 情報セキュリティ 6 データの形式 7 データベースの活用 8 さまざまなデータモデル 9 データ分析の流れ 10 目的に合わせたデータの利用 | | | ○情報通信ネットワークとは何か学習する。 ○プロトコルについて学習する。 ○サーバの役割について学習する。 ○WWWについて理解する。 ○情報セキュリティの機密性、完全性、可用性を理解する。また、情報セキュリティを確保するための方法や技術について学習する。 ○データベースの役割を理解する。 ○社会でのデータベースの活用例を学習する。 ○データ分析の流れと方法を学習する。 | | | |
| 評価の観点 | | 内 容 | | | | | |
| 知識・技能 | | ・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。 | | | | | |
| 思考・判断・表現 | | ・事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | ・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 | | | | | |
| 評価方法 | 3つの観点の達成度を、「定期考査」「実技テスト」「実習の課題」「授業中の態度や取り組む姿勢」等を基に総合的に評価します。 | | | | | | |
| 学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項 | | | | | | | |
| ○ これからの情報社会を生きていく上で大切なことを学習します。情報モラルや情報リテラシーをしっかりと身に付けられるように取り組んでください。 | | | | | | | |
| ○ わからない内容がある場合は、遠慮せず積極的に質問してください。 | | | | | | | |